

インド・ダリット女性のアピール 共通フォーラムが必要

ブルナド・ファティマ・ナティサン (Burnad Fatima.Natesan)
インド タミールナドゥ・ダリット女性運動 顧問

変革のための女性連合はダリット女性、部族女性およびその他の女性たちによるタミールナドゥ州内の運動の経験から誕生した新たなイニシアチブである。社会から疎外されて弱い立場に置かれた女性や人権侵害の被害者といった女性たちをつなぐことを目的に結成された。昨年11月には女性同士の連帯の強化を呼びかけ、女性たちがステージ上で暴力や権利侵害の加害者を明らかにし、生活に変化をもたらせることを目的に「女性たちよ声をあげよ」を開催した。

しかし、これらの運動はその意義が狭められ、軽視されることでその理想から遅れをとらされている。これは女性やダリット、先住民族イルラ、子どもに対する非常に家父長的な批判によるものであり、決して容認できるものではない。変化へ向けてすべての人びとが動いている中、既存の家父長的な運動諸団体は本来の目的を見失い、狭い視野の中でそれぞれが孤立してしまっているが、新自由主義や世界貿易機関、自由貿易協定、カースト差別そして遺伝子組み換え作物に対する反対運動はひとつながりであり、すべての課題は我々全員にとっての挑戦になっている。

デリーの少女への集団レイプ事件は、若者たちが変化を必要としていることを明確にした。少女はレイプされて13日後に亡くなったが、その間に行われた抗議行動はウォールストリートの占拠やアラブの春をほうふつとさせるものであった。変革のための女性連合はさまざまな女性団体を集めて議論を重ね、バーマ委員会へ勧告を提出した。8万人以上がこれに賛同したにも関わらず受理されなかった勧告もあったが、バーマ委員会の勧告は非常に進歩的であり、新たなレイプ処罰法が導入された。最近の最高裁の判決により刑事事件およびレイプ事件に関する未成年の法定年齢を16歳から18歳へ引き上げられた。

変革のための女性連合は、婚前交渉関係にある同棲中のカップルは婚姻関係にあるとみなしたカルマン判事の裁決についての集会を開催し、性的搾取されているダリット女性や部族女性がどのように採決を武器として使えるかの議論を女性団体の間で進めている。また、結婚を批判的に議論し、結婚は女性の人生において第一目標ではないことも話された。

社会・世俗主義研究所の創設者であり、2013年5月14日に亡くなったアスガール・アリ・エンジニア博士を追悼する集会も開催した。彼は世俗主義の価値観や異宗教間の対話を広めると共に、地域社会主義に反対する人道活動家であった。研究所と協働で、若者を対象に世俗主義や人道的価値観に関するトレーニングとワークショップを開催することにした。

ダリットと他カーストとの結婚を発端に、ダルマプリの3つの村で268軒のダリットの家が燃やされ略奪された。100人以上の酒に酔った上位カーストグループの武力攻撃によって、村人たちが30年がかりで築いてきた財産は破壊された。コミュニティからの支持が低下しているある政党は、政治的利益のために通婚(異カースト間の結婚)に反対している。この政党はダリットの男性と結婚した女性の父親を中傷して彼を自殺に追い込んだ上に、自分のカーストの人びとからの票を集めるために若者たちを扇動した結果、今回の残虐行為へつながった。政党指導者の圧力によって妻はダリットの夫を残して家を出て離婚した。翌日、元夫のダリット男性が死亡したというニュースによってインド国内には衝撃が走った。彼の死が殺害によるものなのか自殺なのか、自殺ならばカーストが理由であったのかは明らかになっていない。死亡したダリット男性の追悼と異カースト間の結婚の支持、また政治的利益のための個人の生活への政党介入を非難することを目的に、キャンドル集会が開催された。

5歳から8歳の23人の子どもたちが学校給食を食べた後に死亡したことも大きな衝撃であった。給食は殺虫剤の有機リン酸の臭いがしていたことがわかった。これが事故であったにせよ故意に毒が混入されていたにせよ、貧しく弱い子どもたちの命は危険に晒されやすく、インド洋大津波やヒマラヤでの大規模土砂崩れによる多数の犠牲の後に、今回のような悲劇が起きてしまったのは遺憾である。

また、2年におよぶ反対運動を無視してクダングラム原子力発電所は稼働した上に、多くのNGOが外国献金登録法（FCRA）に基づく登録を取り消すと脅された。

ダルマプuriでの事件と同じ政党による扇動を受け、若者たちがマラカナム村を攻撃した。4月25日のこの攻撃によって11軒のダリットの家が燃やされ、財産は強奪された。インド政府はこの政党を処罰すべきであり、このような政党は禁止されるべきである。コミュニティを混乱に陥れる彼らにとって「政治」とは一体何を意味するのか、人びとのために政治が行われないのであれば誰のためのものなのか疑問である。また、村議会の7人のダリット議員は行政から被害家族へ支払われた見舞金を横取りしたが、これは州政府に通報され、取り締まりがなされた。

夫の家出によって取り残される女性の数も増加している。ある女性は夫と10年間暮らし、2人の子どもを産んだが、現在夫は別の女性と暮らしている。ある教師の女性には教師の夫がいるが、彼は妻と一緒に住みたがらない。声をあげない女性たちの状況を理解し、我々に何が求められているか考えなければならない。

2月14日のバレンタイン・デーに行われた女性に対する暴力に反対する「一億人の立ち上がり」キャンペーン（OBR：One Billion Rising）に変革のための女性連合も参加した。国連によると一億人以上の女性が虐待、拷問、殺害され、彼女たちの権利を侵害されている。キャンペーンは210カ国で開催され、変革のための女性連合は他の女性団体と共にここチェンナイで開催した。

変革のための女性連合はダリット女性のフィルム作成トレーニングにも参加した。ダリット女性たちは初めて触るビデオカメラに感激し、ダリット女性のフィルムを作ることに意欲を燃やしている。

新自由主義時代において新しい形の暴力が増加し、女性にとっての安全は保障されていない。ある女性は年上の男性からの求愛を断ったために酸を浴びせられて亡くなった。酸をかける攻撃は国中で日常的に行われている。最高裁判所は酸の販売を制限し、被害者に賠償金を支払う判決を下した。この判決が問題を解決できるのか注視しつつ、どのように女性への暴力を規制できるのか考えなければならない。また、女性への正義を実現するために、男女間の権力政治の問題にも取り組む必要がある。

喫緊の課題は、不公正に反対する運動、進歩的フォーラム、作家、反帝国主義者、反グローバリゼーション運動、世俗主義者、フェミニスト、環境活動家そして新しい若者のフォーラムなどすべての社会運動をひとつにまとめることである。

お互いの偏見を捨て、より広範な共通フォーラムを新たに作ろうではないか。